第５学年３組　国語科学習指導案

令和６年 10 月 18 日（金）３校時

指導者　教諭　鵜池　彰裕

単元名　　本のコメンテーターになろう

中心学習材　「注文の多い料理店」　東京書籍５年

補助学習材　伝記「宮沢賢治」　東京書籍５年

単元について

○　本学級の子供は，７月に「世界でいちばんやかましい音」を学習材として物語の全体像を捉える学習に取り組んでいる。物語の全体像を捉えるための見方として「変化」「場面の役割」「表現の工夫」等を提示して，子供が考えたい見方を働かせて問いを立てることで学習の個性化を図りながら，言語活動に取り組んできた。しかし，言語活動の中に「変化」や「場面の役割」についての子供の読みは表出したが，「表現の工夫」についてはほとんど表出が見られなかった。そこで本単元で獲得を目指す「表現の効果を想像する力」のレディネスを知るために既習学習材「世界でいちばんやかましい音」を用いてレディネステストを行った。その結果が**表１**である。

表１　「表現の効果を想像する力」について事前アンケートの結果（５年３組 20 名９月実施）

設問	回答結果	
表現の工夫によってどんな感じ方に変わるか説明してください。	物語の全体像と関連付けて、表現の効果を想像することができている。	４名
	表現の効果を捉えることができている。	13 名
	表現の効果を捉えることができていない。	３名

設問より，　表現の効果を捉えることができている子供が全体の６割程度いることが分かった。しかし，「比喩」の効果を「分かりやすく伝わる」と答えたり，「繰り返し」の効果を「強調している」と答えたりするなど，表現の工夫そのものの効果を答えている子供がほとんどであった。また，表現の効果を想像することができていない子供が３名おり，「繰り返すことで忘れない」「カチカチとしっかりやっていきたい」など，表現の工夫そのものを理解できていない状況が推察される。

一方，「繰り返すことでみんなに広がっているような効果がある。」や「オノマトペを使うことで、リアルに感じられる効果がある」等，物語の全体像と関連付けて，表現の効果を想像することができている子供が４名いた。

○　本単元で取り扱う中心学習材は，教科書（東京書籍５年）に掲載されている「注文の多い料理店」である。この作品は，ファンタジー作品であり，２人の紳士は，「不思議な世界」で訪れる山猫軒でごちそうを期待するが，山猫は２人の紳士をごちそうとして食べられるように注文を繰り返すという逆説的なおもしろさがある。身勝手な人物として描かれた２人の紳士は「不思議な世界」で消えることのない印を顔に付けられてしまうが、「現実の世界」に戻っても消えないことから作者の考えにも迫ることができるだろう。また，題名が２通りに解釈できるところや色彩を使った表現，擬声語・擬態語が多用されていることなど、物語世界に引き込む表現の工夫を様々な観点から見つけることができる。補助学習材「宮沢賢治」は，宮沢賢治の生き方や作風について知ることができる伝記である。この伝記を読むことで，二人の紳士と宮沢賢治の人物像の違いに気付き，表現の効果についての考えを深めるきっかけになるだろう。このように，「注文の多い料理店」は伝記「宮沢賢治」を考えの一助としながら，２人の紳士と山猫の掛け合い，２通りの意味がある題名や現実の世界に戻っても消えることのない印などについて考えることで表現の効果を想像する力を身に付けることができる学習材であると言えるだろう。

○　子供の実態と学習材の特徴を基に，主体的・対話的に表現の効果を想像する深い学びを実現するために，本単元の学習課題を以下のように設定する。

【指導事項】表現の効果を想像する力
【思考操作】表現の工夫と作品のおもしろさを結び付けたり，表現の工夫と二人の紳士の人物像を関連付けたり，伝記「宮沢賢治」と作品の結末を関係付けたりすること
【言語活動】「注文の多い料理店」の表現のおもしろさ解説書を書くこと

言葉の力は,「表現の効果を想像する力」である。学習指導要領　国語科の第５・６学年Ｃ読むこと⑴「エ　人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。」に関連する部分である。本学習材で表現の効果を想像するためには，表現の工夫と作品のおもしろさを結び付けて考えていく必要があると考える。しかし，本学級は，表現の工夫そのものを捉える読み方をしているが子供が多い。そこで中心人物の人物像や作品の全体像について伝記「宮沢賢治」を用いて大まかに捉え，それらと表現の工夫がどのように結び付けられるかを想像できるようにしていく。思考操作は,「表現の工夫と作品のおもしろさを結び付けたり，表現の工夫と二人の紳士の人物像を関連付けたり，宮沢賢治と二人の紳士の人物像を比べること」である。単元びらきにおいて，表現の効果を想像する力について明示的に指導する過程で，どういった考え方ができるかの見通しを示して，子供が自己選択できるようにしていきたい。言語活動は「『注文の多い料理店』の表現のおもしろさ解説文を書くこと」である。おもしろさについて気付いたことや考えたことを相手意識をもって解説することを通して，根拠や理由を明らかにしながら表現の効果を想像することができると考える。

さらに本単元では，個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して表現の効果を想像する力を育成するために次の２点について重点的に取り組ませる。

１つ目は，子供が自分らしい見方・考え方・感じ方を働かせた問いを立てながら学ぶことである。子供が既にもっている表現の効果を想像するための既有知識と本単元での学びを結び付けることができるように，言葉の力について生まれた疑問や既有知識とのずれを問いとして言語化していく。また，学習材を初めて読んだ後の感想(読後感)をもとに問いを立てさせることで，自分らしい感じ方を課題解決に生かしながら学ぶことができるように支えていく。とりわけ，本単元では以下のような見方で問いを立てて探究的に学ぶことができるように支援していく。

①表現の効果を考える方略についての問い。例）「注文の多い料理店」という題名にはどんなおもしろさがあるか。
②表現の効果について想像するための問い。例）どうして二人の紳士の顔はもとにもどらなかったのか。
③学習材の中で疑問に思った問い。例）どうして二人の紳士は注文をされているということに気付かなかったのか。
④読後感の根拠を探すための問い。例）この物語を怖いと思ったのはどんな表現の効果があるからかな。

２つ目は,「表現のおもしろさ」について聴き合いの場を設けることである。自分らしい見方・考え方・感じ方を働かせて探究してきた学びを「表現のおもしろさ」という視点で共有することで，自分が考える表現の効果を分かってもらおうと具体的に伝えたり，相手が考える表現の効果を分かろうと主体的に聴いたりする機会として設定する。これによって、多様な見方・考え方で「表現のおもしろさ」について考え，より深く表現の効果を捉えることができると考える。また，聴き合いの場を経ることでこそ生まれる新たな問いを探究する時間も確保することで，個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して表現の効果を想像する力の育成を図っていきたい。

単元の目標

○　比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。　〔知識及び技能〕⑴ク
○　「読むこと」において，人物像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすることができる。　〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃ⑴エ
○　言葉がもつよさを認識するとともに，進んで読書をし，国語の大切さを自覚して，思いや考えを伝え合おうとする。　「学びに向かう力，人間性等」

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。　[(1)ク]	「読むこと」において，人物像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。[C(1)エ]	粘り強く人物像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりして，学習計画に沿って「注文の多い料理店」の「おもしろ表現解説文」を書こうとしている。

単元計画及び評価計画（全８時間）┆┆…評価方法，●…達成不十分な子供への手立て，┆┆…本時

過程	主な学習活動	指導上の留意点	時配
下ごしらえ	・　読後感を交流する。 ・　新出語句の意味調べをする。 ・　作品の中の表現の工夫やファンタジー作品の構成について知る。 ・　宮沢賢治の伝記を読み，人物像についてまとめる。	○　全文範読をして，読後感を交流し，それぞれの考えを聴き合う。 ○　場面分けについて確認し、意味が分からない言葉や表現を確認し調べさせる。 ○　学級全体で作品中の表現の工夫を見つけ出したり，ファンタジー作品特有の不思議な世界と現実の世界という構成を確認したりして，言葉の力を働かせるための足場かけをする。 ○　宮沢賢治が大切にしていることを中心に抜き出し，人物像を捉える見方についても確認する。	2
単元びらき	・　言葉の力や考え方，取り組むことを知り，単元の見通しをもつ。 学習課題 【言葉の力】表現の効果を想像する力 【考え方】(1)表現の工夫と作品のおもしろさを結び付ける (2)表現の工夫と二人の紳士の人物像を関連付ける (3)宮沢賢治の人物像と作品の結末を関係付ける 【取り組むこと】「注文の多い料理店」の表現のおもしろさ解説文を書くこと ・　問いを立て，自分の学習計画 を立てる。 どうして二人の紳士の顔はくしゃくしゃのまま元通りに戻らなかったのか。	○　既習学習材を用いて，表現の効果を想像する力について明示的指導を行うと同時に，本単元で表現の効果を想像するための考え方を例示したり，取り組むことを確認したりする。 ○　言葉の力についての明示的指導や読後感について交流した時の板書を踏まえて自分が探究したい問いを立てることができるように支える。 ○　単元びらきで大事だと思ったことや探究したい問いを自分の学習計画表に書きこませることで，自分の学習計画を立てることができるように支える。	1
課題解決	・　問いを更新したり解決したりしながら，「注文の多い料理店」の表現のおもしろさを聴き合い，表現の効果について自分の考えをもつ。 二人の紳士の人物像について考えてみよう。初めの場面では、イギリスの兵隊の格好をして… ぼくは、戸の言葉にはどんなおもしろさがあるのか考えたいな。一枚目の戸には、「大かんげいいたします。」と書いてあるけど、二人の紳士からしたら… 二人の紳士は、犬が死んだ時に損したお金のことを言っているのが嫌だな。	○　全文プリントや宮沢賢治の人物像をまとめたものを掲示することで，作品全体を俯瞰したり，人物像と関係付けたりしながら考えることができるように学習環境を整えていく。 ○　問いの一覧を提示したり，子供が解決に向かうことができる問いに整えたりして，子供が問いを修正したり更新したりしながら学ぶことができるように支援していく。 ○　表現の工夫やその効果を考えたり，二人の紳士の人物像を想像している姿や単元びらきで提案した考え方を働かせている姿を読み取り，学級全体で価値付けたり意味づけたりしていく。 《知識・技能》（談話・言語活動作品） B　比喩表現や反復表現などの表現の工夫に着目し，問いを立てたり表現のおもしろさについて解説したりしているかを観察したり，関与したりして読み取る。 ●　下ごしらえの時の板書を見返したり，表現の工夫が含まれた叙述を複数提示し解説したい叙述を選んだりできるように支援する。	4

<table>
<tr>
<td rowspan="2">課題解決</td>
<td>・　毎時間の学習を振り返り「１枚ポートフォリオ」に書く。

今日は二人の紳士の人物像について考えることができたぞ。宮沢賢治の人物像と比べると、二人の人物像は自然を大事にしていないということができそうだ。

戸の言葉には、紳士から見た時と山猫から見た時の意味に違いがあるな。次の時間には、４枚目から後の意味についても考えよう。</td>
<td>○　自分の学びが学習課題の達成に向かっているかを「１枚ポートフォリオ」に言語化させ，自分の学びを評価し調整することを促す。
○　毎時間の始めに「１枚ポートフォリオ」を振り返り，これまでの学びを踏まえて，本時の見通しをもてるように促す。
《主》（談話・言語活動への取組・１枚ポートフォリオ）
B　粘り強く人物像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりして，学習計画に沿って「注文の多い料理店」の表現のおもしろさを聴き合おうとしているか授業中に観察や関与をしたり，授業後に子供が書いたものを分析したりする。
●　書こうとしていることを読み取り，具体的な叙述を基に考えられるように支援する。
●　問いが似ている児童や同じ考え方をしている児童同士をつなげて考えを深めることができるように支援する。</td>
<td rowspan="2">本時６／８</td>
</tr>
<tr>
<td>・　表現のおもしろさについて考えたことを聴き合い，表現のおもしろさ解説文を書く。

二人の紳士の人物像について考えたことと終わりの場面で顔がくしゃくしゃになったことを関係づけて発表したいな。他のみんなはどんなことを考えたのかな。
【表現 の効果についての聴き合いの例】
W：私は６枚目の戸の表に「料理はもうすぐできます。十五分とお待たせはいたしません。すぐ食べられます。」と書いてあるところがおもしろいと思いました。なぜなら「食べられます」という言葉には、二人の紳士が食べられるという意味と山猫に食べられてしまうという二つの意味があるからです。
X：私も似ていて７枚目の戸に「さあさあ、おなかにお入りください。」と書いてあるところがおもしろいと思いました。「おなか」という言葉には中に入るという意味と体のお腹に入るという意味の２つがあるからです。
Y：どっちも２つの意味があるというところが同じだね。
Z：私は２人の紳士が現実の世界に戻っても顔が戻らないところがおもしろいと思いました。宮沢賢治は自然を大切にしていたけど、126 ページに「…」とあるように紳士は自然を粗末にしているから罰が当たったと思いました。
・　聴き合ったことを踏まえて，自分の考えを見直したり，新たな問いを立てたりして，表現のおもしろさについて考えをまとめる。

戸の言葉を紳士たちが自分の都合のいいように考えたところも、紳士の自分勝手な人物像とつながるな。</td>
<td>**「表現のおもしろさについてこれまで考えてきたことを聴き合いましょう。」**
○　学習課題を軸に，子供が問いを立てて探究してきたことを，聴き合うことでより多面的に表現の効果についての考えることができるように支援していく
○　聴き合う際には，友達の考えに「どこからそう思ったのか（根拠の質問）」や「どうしてそう思ったのか（理由の質問）」という友達の考えを解釈しようとする質問をし合うことを価値づけていく。
○　単元の問いについて聴き合ったことを踏まえて，自分の考えを更新したり，修正したりしてまとめる時間を設定する。
《思考・判断・表現》（談話・言語活動作品）
B　２人の紳士の人物像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしているか談話を観察し関与したり，言語活動作品を分析したりして読み取る。
●　現実の世界と不思議な世界で変化しなかったものに目を向けさせたり，表現の工夫がある時とない時の感じ方を比べさせたりする。</td>
</tr>
<tr>
<td>まとめ</td>
<td>・　表現のおもしろさ解説書を読み合いコメントし合う。
・　単元全体を振り返り，言葉の力や考え方，学び方についてまとめる。
・　表現の効果を想像する力を働かせる活用題に取り組む。</td>
<td>○　コメントのモデルを示し，表現の効果を想像できているかどうかを相互評価できるように支援する。
○　タブレットで共有した学習の記録や「１枚ポートフォリオ」を見返し，身に付いた力やそのためにどんな考え方をしたのかを「単元の振り返り」にまとめさせることで，自分の学びの自覚化を促す。
○　本単元における学習の経験を生かすために，学習計画表やタブレットに残った学習の記録を見ながら学習に取り組むように促す。</td>
<td>1</td>
</tr>
</table>

単元計画及び評価計画（全８時間）……評価方法，●…達成不十分な子供への手立て，……本時

過程	下ごしらえ（２時間）	単元びらき（１時間）	課題解決（４時間，本時６／８）	まとめ（１時間）
学習活動と予想される子供の反応	1　読後感を交流する。 X：この物語を一言でいうと，「すっきりする」物語だな。なぜなら、二人の紳士が懲らしめられたからね。 Y：私は「おそろしい」物語だと思った。どうして紳士を食べようとしたんだろう。 Z：私は「不思議」な物語だと思った。まだまだよく分からないところがあるからね。 W：私は「おもしろい」物語だと思った。戸に何と書かれてるかわくわくしたから。 2　新出語句の意味調べをする。 3　作品の中の表現の工夫を見つけたりやファンタジー作品の構成について知ったりする。 4　宮沢賢治の伝記を読み，人物像についてまとめる。	1　学習課題を知り，単元の見通しをもつ。 2　問いを立て，自分の学習計画を立てる。 X：「どうして二人の紳士の顔はくしゃくしゃのまま元通りに戻らなかったのか。」について，最初に考えよう。二人の紳士が猫に食べられそうになるところをもっと読みたいな。 Y：私は「どうして山猫は二人の紳士を食べようとしたのか」について考えたいな。同じような問いの人と一緒にしたらできそう。 Z：私は「二人の紳士の心情の変化はなにか」について考えていこう。前の単元でも心情を考えていったら全体像がよく分かったからね。 W：私は「山猫軒の戸のおもしろさと表現の工夫を結び付けられるか」にしよう。この考え方が分かりやすそう。	学習課題 【言葉の力】【考え方】 (1)表現の効果を想像する力 (2)表現の工夫と物語のおもしろさを結び付ける (3)宮沢賢治の人物像と物語の人物像を関係付ける 【取り組むこと】「注文の多い料理店」の表現のおもしろさ解説文を書くこと ・　問いを更新したり解決したりし，表現のおもしろさについて聴き合い，表現のおもしろさ解説文を書く。 ・　表現のおもしろさを聴き合い，自分の考えを見直したり問いを更新したりし，表現の効果について多面的に考える。 X：二人の紳士は不思議な世界で山猫に食べられそうになって，顔がくしゃくしゃになったんだよね。初めに不思議な世界に入るときってどんな様子だったかな。 Y：山猫は二人の紳士のような人じゃなくても食べようとするのかな。この二人の紳士だったから食べようとしたのかな。 X：初めの場面で「鹿の黄色な…」って言っているから、生き物の命を大切にしていないよね。 Y：山猫は命を大切にしないような人物だから食べてしまおうとしたの。 X：そうだよ。だから顔がくしゃくしゃになるっていう罰が当たったんだ Y：なるほど。そこともつながるんだね。自分勝手だから罰が当たった。 X：宮沢賢治の人物像と比べたら真逆だね。 Z：紳士の心情はいろいろ変わるけど，最初と最後の場面は一緒だと思うんだけどどうかな。 X：どの文から思ったの。 Y：終わりの場面は「…だんごを食べ，とちゅうで十円だけ山鳥を買って…」と書いてあるね。 Z：ほら。最初も犬が死んだときにお金の話をしていたでしょ。 X：私たちは宮沢賢治と紳士の人物像が真逆だと思ってたけど、罰が当たっても最後まで紳士は命を大切にしていないのは新しい発見だった。 Z：人物像と関係づけたら，心情の変化からもっと考えが思いつきそう。 Z：二人の紳士は最初，疲れて帰りたい心情だな。でも戸を開けていくうちに、偉い人と仲良くなりたい心情が強くなっているね。 山猫軒での最後は泣いて泣いて怖がっていたけど、猟師に会った帰り道では元通りに戻ったみたい。山場で下がって終わりは初めの場面と一緒かな。 W：戸の言葉には、紳士から見た時と山猫から見た時の意味に違いがあるな。次は、「４枚目の戸にはどんなおもしろさがあるか」について考えよう。 ６枚目の戸の表には「…お待たせはいたしません。すぐ食べられます。」と書かれているけれど、ここにはどんな表現の工夫があるのかな。自分だけで考えてたけど難しいな。 T：６枚目の戸の表の「すぐ食べられます。」のところって誰がすぐ食べられるのかな？ W：これって二人の紳士が山猫に食べられちゃうって意味にもなっている?!そう考えると７枚目の扉も… 戸の言葉を読んで「偉い人と仲良くなれる」って都合のいいように考えたのも、紳士の人物像とつながるな。自分勝手で生き物の命を大切にしない人物って言えそうだ。だから物語の終わりで，顔がくしゃくしゃになったんだね。 W：戸の言葉には二つの意味があって、それが表現のおもしろさだと思うけど，どうかな。 Y：うんうん。戸の言葉を自分にいい意味で考えたから最後の戸までいったんだね。自分勝手な人物像とつながるね。 W：なるほど。人物像とつなげると二つの意味がある戸がもっとおもしろくまとめられそう。 紳士の顔がくしゃくしゃになって元に戻らなかったのがすっきりするって読後感だった。これは紳士の人物像が命を大切にしない自分勝手な人物だから罰が当たったと思っていた。でも，山猫に懲らしめられた後も命を大切にしない人物というところが，紳士の顔が元に戻らなかった一番大きな理由だと思う。紳士の顔がくしゃくしゃになるという表現にはとても深い意味が込められていたんだ。 ・　毎時間の学習を振り返り「１枚ポートフォリオ」に書く。	・　「表現のおもしろさ解説文」を読み合いコメントし合う。 ・　単元全体を振り返り，言葉の力や考え方，学び方についてまとめる。 X：【単元の振り返りの例】 この単元の言葉の力は「表現の効果を想像する力」でした。表現の効果は，どうしてそういう表現をしたのか理由を考えるとよく分かりました。その理由を考えるために人物像を想像したり，物語の終わり方に目を向けたりしたらよく分かりました。例えば，二人の紳士の人物像と「二人の紳士の顔がくしゃくしゃから戻らない」という物語の終わり方を関係づけました。 うまくいった考え方は，「宮沢賢治の人物像と物語の終わり方を関係づける」です。宮沢賢治だけじゃなくて，紳士の人物像についても想像して関係づけることができました。これから表現の効果を考える時に，表現の工夫がある文だけを見て考えるんじゃなくて，その物語の特徴や作者や人物の人物像と関係づけて考えるようにしていきたいです。 自分の学び方はいい学び方だったと思います。まず自分が考えたい問いについて，友達と聴き合いながらできたところがよかったです。友達と聴き合いながらやることで，自分の考えが広がったと思うので，次の単元でも友達と聴き合いながらやりたいです。 （440 字） ・　表現の効果を想像する力を働かせる活用題に取り組む。
教師の働きかけ	○　全文範読をして，読後感を交流し，それぞれの考えを聴き合う。 ○　意味が分からない言葉や表現を確認し調べさせる。 ○　学級全体で作品中の表現の工夫を見つけ出したり，ファンタジー作品の構成を確認したりして，言葉の力を働かせる足場かけをする。 ○　宮沢賢治が大切にしていることを中心に抜き出し，人物像を捉える見方を確認する。	○　表現の効果を想像する力について明示的指導を行い，表現の効果を想像するための考え方を例示し，取り組むことの見通しをもてるように支える。 ○　言葉の力や読後感を基に自分が探究したい問いを立てることができるように支える。 ○　単元びらきで考えたことや探究したい問いを自分の学習計画表に書きこむように促し、見通しを文字で整理することができるように支える。	○　全文プリントや宮沢賢治の人物像をまとめたものを掲示することで，作品全体を俯瞰したり，人物像と関係付けたりしながら考えることができるように学習環境を整えていく。 ○　問いの一覧を提示したり，子供が解決に向かうことができる問いに整えたりして，子供が問いを修正したり更新したりしながら学ぶことができるように支援していく。 ○　表現の工夫やその効果，二人の紳士の人物像を捉えている姿や単元びらきで提案した考え方を働かせている姿を読み取り，学級全体で価値付けたり意味付けたりしていく。 ○　自分の学びが学習課題の達成に向かっているかを「１　枚ポートフォリオ」に言語化させ，自分の学びを評価し調整することを促す。 ○　毎時間の始めに「１枚ポートフォリオ」を振り返ったり学習計画表を確認したりし，これまでの学びを踏まえて，本時の見通しをもてるように促す。 ○　机間巡視する中で，子供の学びを深めるために以下のような声かけを行う。 **「表現のおもしろさについてこれまで考えてきたことを聴き合いましょう。」** ○　学習課題を軸に，子供が問いを立てて探究してきたことを，聴き合うことでより多面的に表現の効果について考えることができるように支援していく ○　聴き合う際には，友達の考えに「どの文からそう思ったんですか（根拠の質問）」や「どうしてそう思ったんですか（理由の質問）」という友達の考えを解釈しようとする質問をし合うことを価値づけていく。	○　コメントのモデルを示し，表現の効果を想像できているかどうかについて相互評価できるように支援する。 ○　タブレットで共有した学習の記録や「１枚ポートフォリオ」を見返し，身に付いた力やそのためにどんな考え方をしたのかを「単元の振り返り」にまとめさせ，自分の学びの自覚化を促す。 ○　自分の学びを自覚して書くことができるように単元の振り返りのモデルや書き出しを示して支える。 ○　本単元における学習の経験を生かすために，タブレットで共有した学習の記録や学習計画表を見ながら活用題に取り組むように促す。
評価	《知識・技能》（談話・言語活動作品） B　比喩表現や反復表現などの表現の工夫に着目し，問いを立てたり表現のおもしろさについて解説したりしているかを観察したり，関与したりして読み取る。 ●　下ごしらえの時の板書を見返したり，表現の工夫が含まれた叙述を複数提示し解説したい叙述を選んだりできるように支援する。	《主》（談話・言語活動への取組・１枚ポートフォリオ） B　粘り強く人物像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりして，学習計画に沿って「注文の多い料理店」の表現のおもしろさを聴き合おうとしているか授業中に観察や関与をしたり，授業後に子供が書いたものを分析したりする。 ●　書こうとしていることを読み取り，具体的な叙述を基に考えられるように支援する。 ●　問いが似ている児童や同じ考え方をしている児童同士をつなげて考えを深めることができるように支援する。	《思考・判断・表現》（談話・言語活動作品） B　二人の紳士の人物像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしているか談話を観察し関与したり，言語活動作品を分析したりして読み取る。 ●　現実の世界と不思議な世界で変化しなかったものに目を向けさせたり，表現の工夫がある時とない時の感じ方を比べさせたりする。	